

●自転車に思う

最近、朝の通勤時間帯に、弊社近くを通る山手通り（環状6号線）を走行している自転車が aumentado ような気がします。震災や計画停電の影響で自転車通勤へ切り替えた人が多くいるのではないのでしょうか。そして、同時に感じることは、自転車のマナーの悪さです。例えば、横断歩道を青信号で渡っているとき、目の前を横切る自転車によく遭遇します。

自転車の普及は環境や健康への寄与を考えればよいことだと思いますが、傍若無人な自転車が増えるのは困ります。先日朝の情報番組でも、渋谷駅前のスクランブル交差点で自転車の取り締まりを集中的にやったというニュースがありましたが、自転車利用者への交通ルールとマナーの浸透が必要だと感じます。

一方、自転車利用の拡大を背景に国道や都道では、自転車レーンの整備も進められています。しかしながら多くの道路では、限られた空間の中で自転車の走行空間を確保することは容易ではないと考えられます。

自転車に限った話ではありませんが、ドイツなど欧州では信号や標識を撤去し、運転手や歩行者の注意力を高めることで安全を向上させる、「Shared Space」という手法が試されているという話を聞きました。この話を聞いた時に日本とは正反対の発想だと思いましたが、「Shared Space」以前に、自動車・自転車・歩行者の三者がお互いのことを意識しながら、道路という限られた空間を利用することが必要だと感じました。

永元真也（第一計画部）

●土木学会海外支部活動

現在、土木学会には韓国、台湾、トルコ、モンゴル、イギリス、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムの9つの海外支部（分会）がある。分会は各国に滞在する10名の土木学会会員が集まれば設立できる。設立すると、土木学会図書資料の寄贈（分会毎に1セット）、分会活動費の支給、土木学会誌を現地で受け取れるなどのメリットがある。分会のメンバーや活動内容は国によって様々で、日本人の交流の場として分会を活用している英国や、日本への留学経験を持つメンバーが中心となり、日本の土木技術者との交流会を行う韓国や台湾など様々である。活動費は主に分会メンバーの集まりや交流会を行う際の会場費に使われている。

この中のベトナム分会は、3年前に設立された最も新しい分会であり、私も設立当初からメンバーとなりお手伝いをさせて頂いている。土木学会が発信している情報は専門性に優れ非常に価値があるものの、英語で発信されている情報は限定的であるのが現状だ。この点については土木学会内部でも議論されており、今後の改善が期待されている。また、昨今ベトナムにて土木関係の仕事に従事されている日本人は増え続けており、日本人土木技術者の交流の場としても今後利用価値が高くなるのではないかと考えている。

関 陽水（海外室）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>